



透析施設における 雪害対策に対する実態調査2018



石川腎不全看護研究会

平成30年北陸豪雪の概要



2月6日: 国道福井県北部の国道8号では坂井市からあわら市の10 km区間で車約1500台が立ち往生し、福井県は自衛隊に災害派遣を要請
JR西日本北陸本線の金沢駅 - 敦賀駅間では始発から終日運転を見合わせ、サンダーバードなど特急88本と普通列車146本が運休。
北陸自動車道: 富山県と福井県の間で通行止。

2月7日: JR西日本は前日に引き続き金沢駅 - 敦賀駅間で全列車終日運転を見合わせ。
小松空港でも終日全便欠航

平成30年2月7日の積雪量

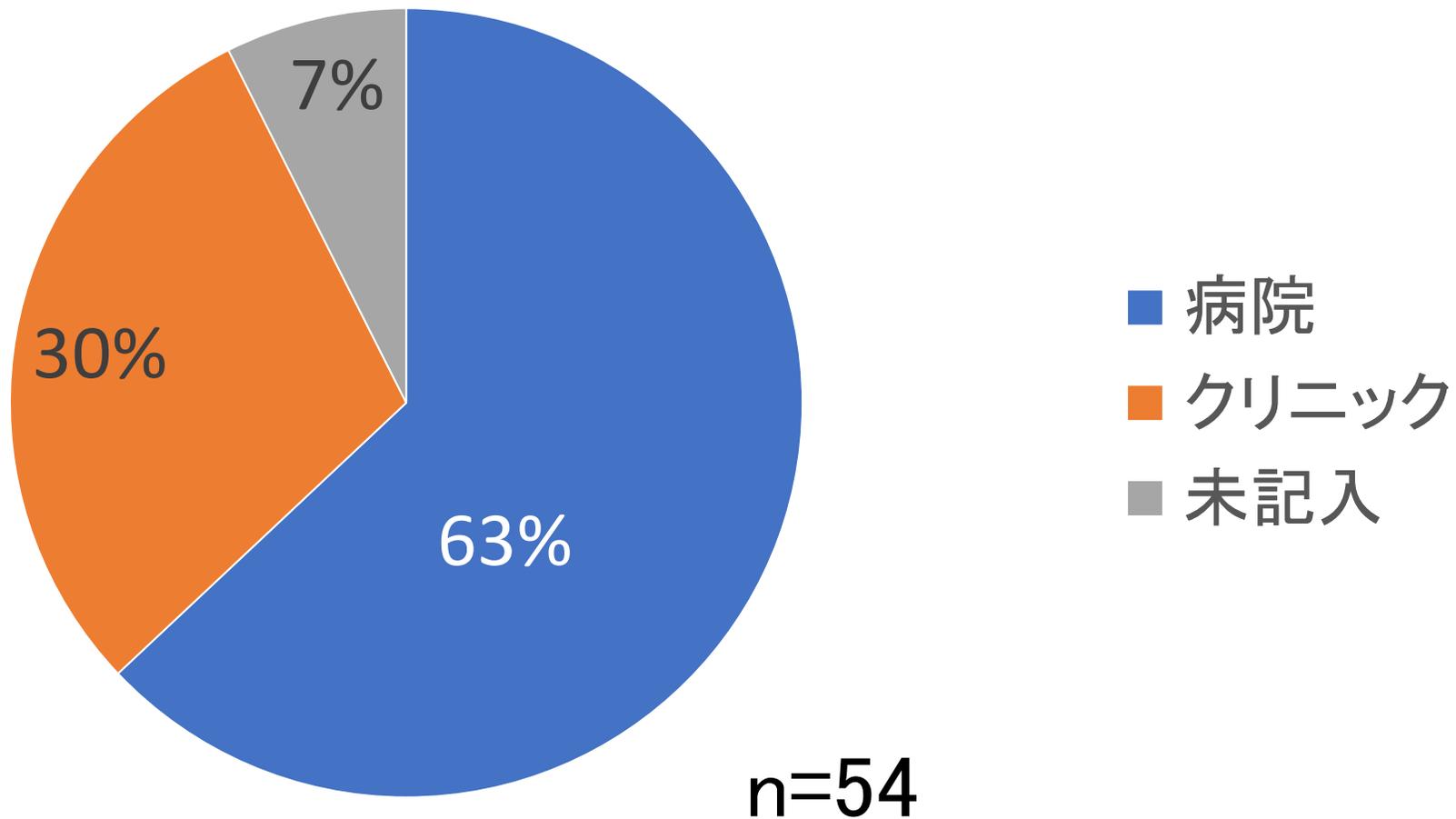


調査の概要

- 調査期間：平成30年4月23日～5月31日
- 調査内容：患者・職員の来院状況、連絡体制や外部との連携について、患者指導と看護介入について、今後の課題について
- 調査対象：石川県（42施設）・福井県（28施設）の透析施設
- 回答施設：70施設中54施設
- 調査方法：独自に作成した調査用紙を使用
- 倫理的配慮：施設名や個人が特定されないようにし、回答を持って承諾を得たものとした

結果

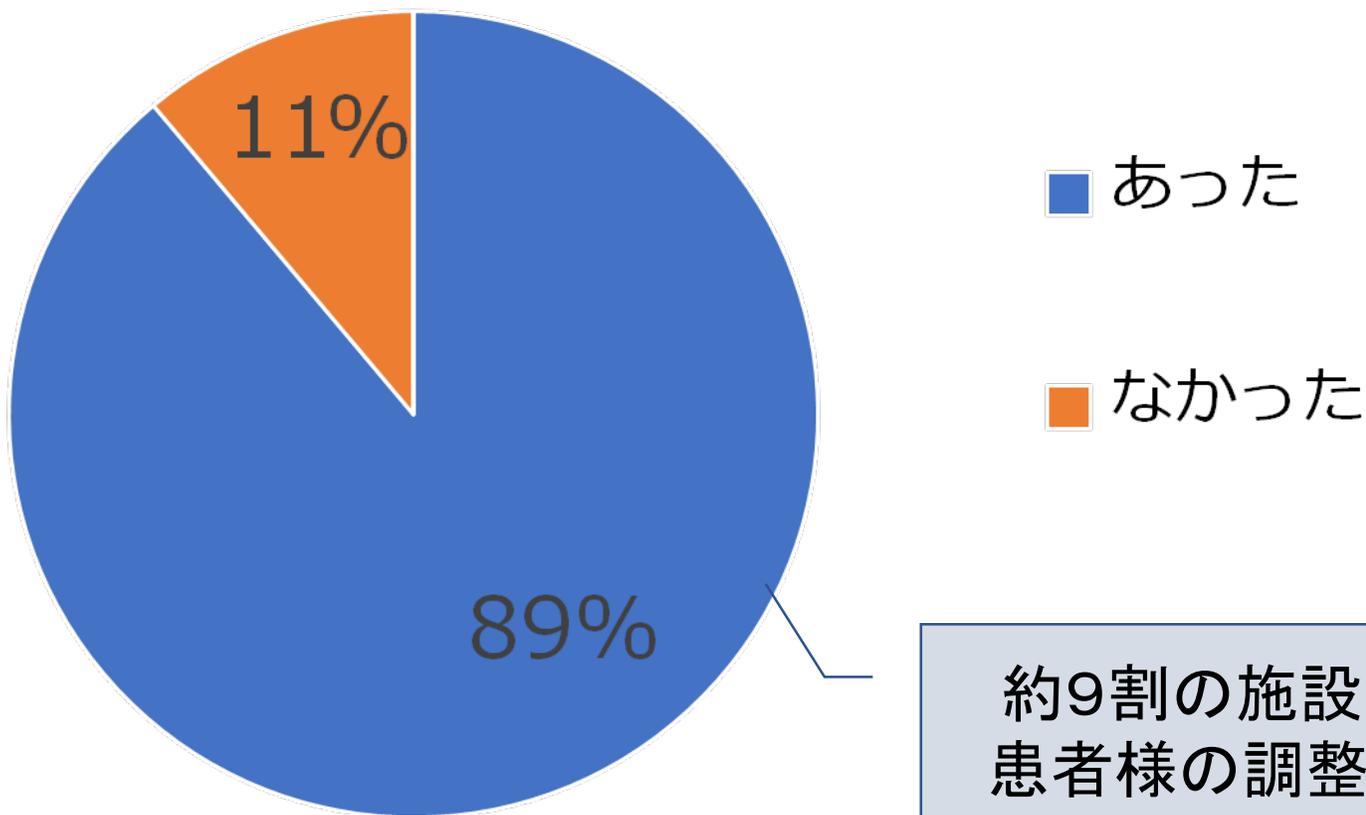
調査対象施設の形体



1. 今年の雪害で患者様への来院が遅れたり、来院できなかった例はあったか

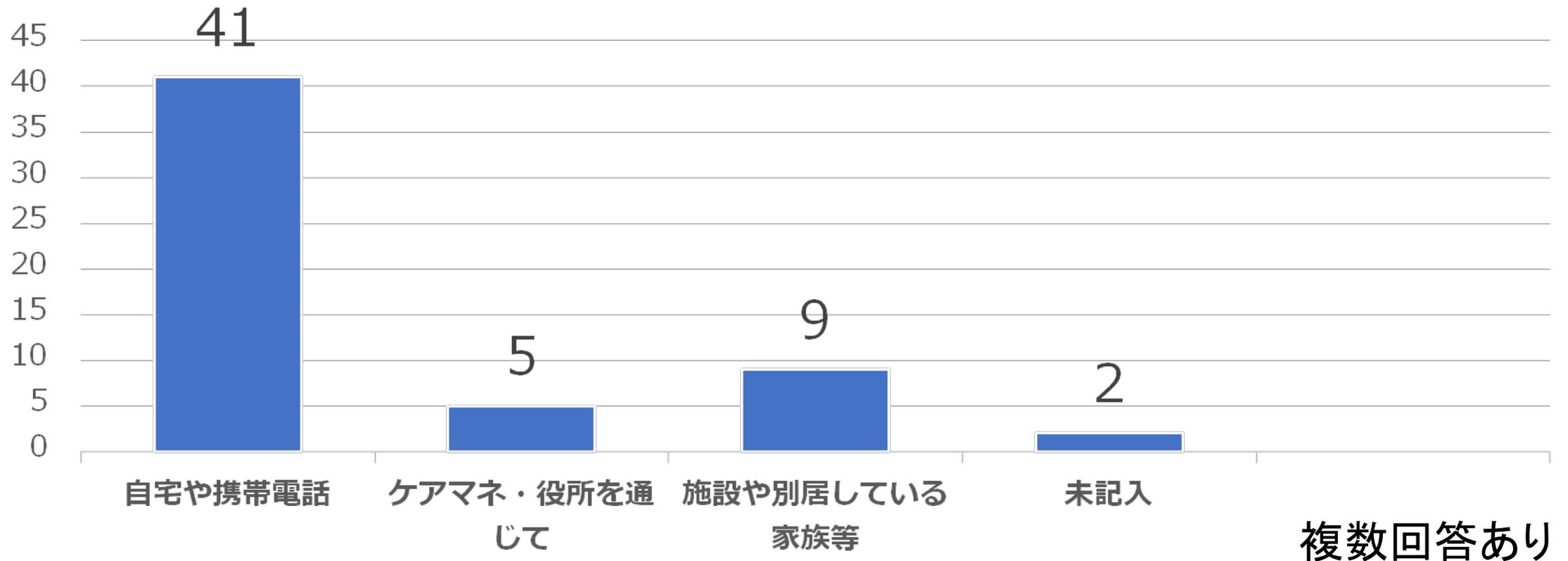


n=54

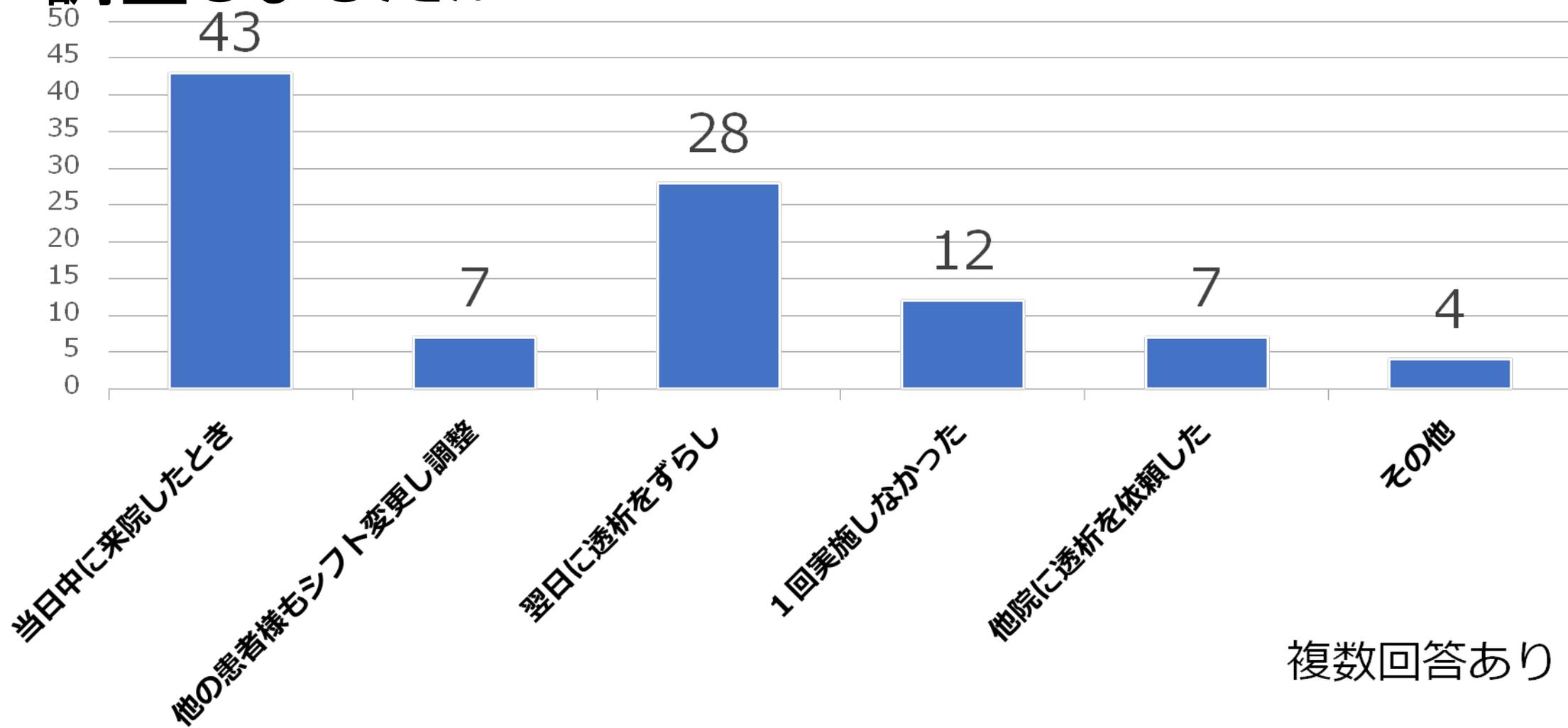


約9割の施設で
患者様の調整が
必要な状況

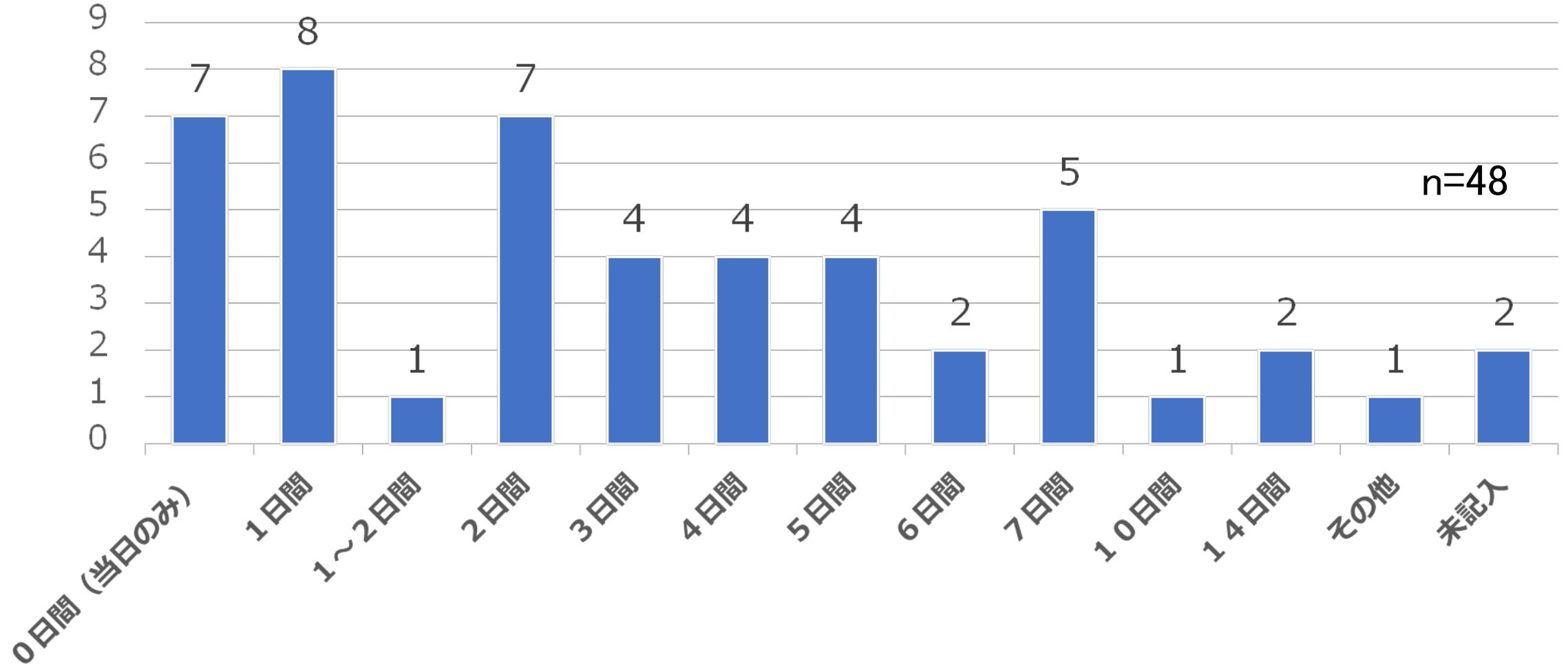
2. 1で「あった」と応えられた48施設へ。来院できなかつた(遅れた)患者にどのように連絡をとったか



3. 1で「あった」と応えられた48施設へ。来院できなかつた(遅れた)患者に、どのようにシフトを調整しましたか



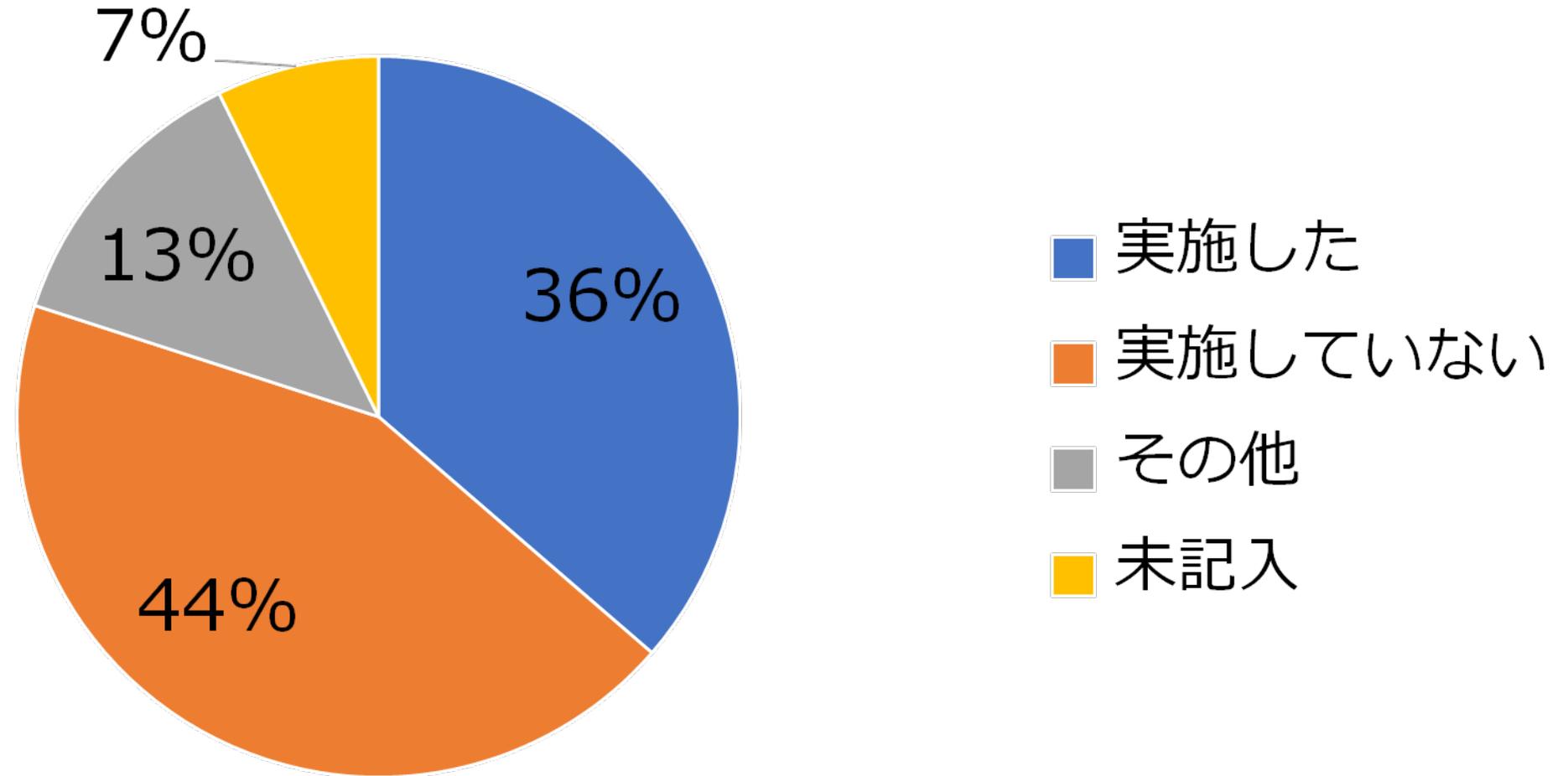
4. 1で「あった」と答えられた48施設へ。来院不能な患者様の対応は何日続きましたか



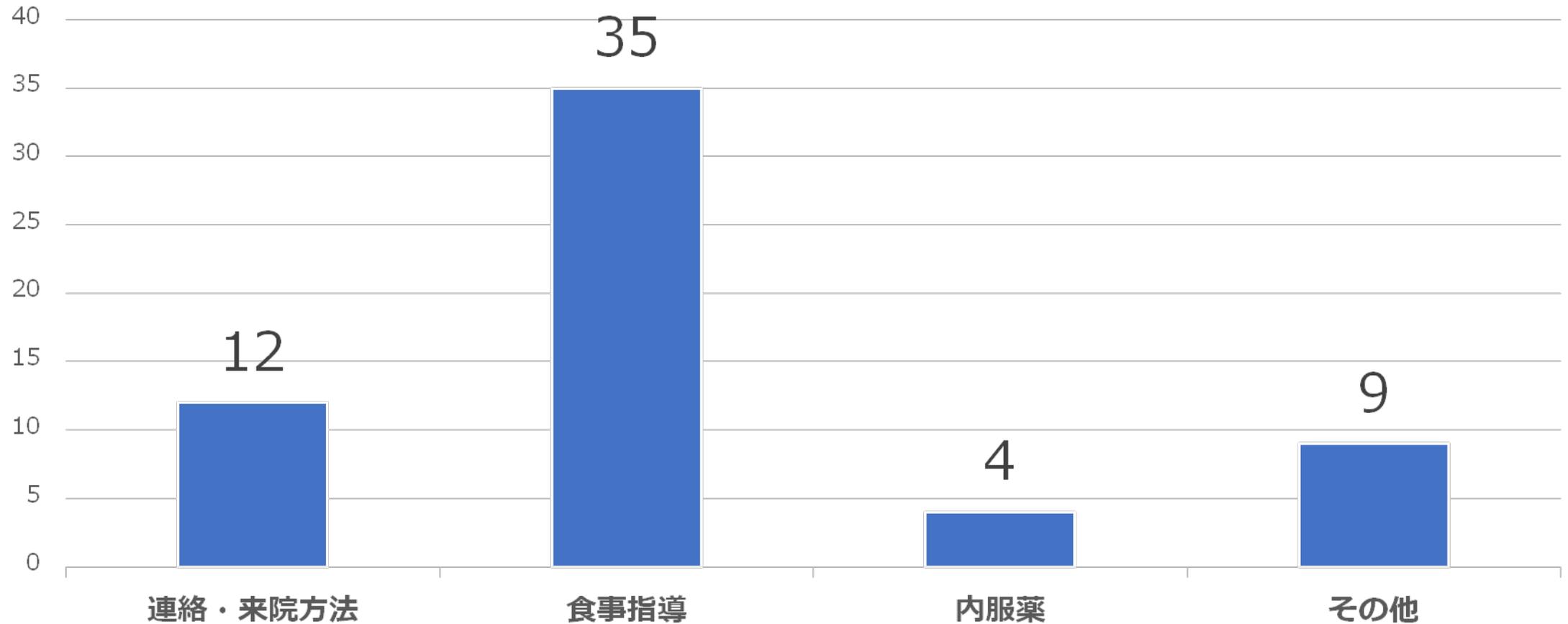
患者様の状況と対応についてのまとめ

- 約9割の施設で患者様が来院困難な状況が存在し、調整が必要な状況であった
- 患者様の来院困難は、3日で半数の施設が、1週間でほぼ全施設で解消されたが、長い施設では14日間継続された例もあった
- シフト調整については、当日に時間調整で対応した症例が多いが、翌日にずらしたり、1回透析をしないなどの調整もおこなった患者様も存在した
- 入院の対応を行った施設もあった

5. 災害に備えて、患者様に対し透析不能な場合の指導は実施しましたか



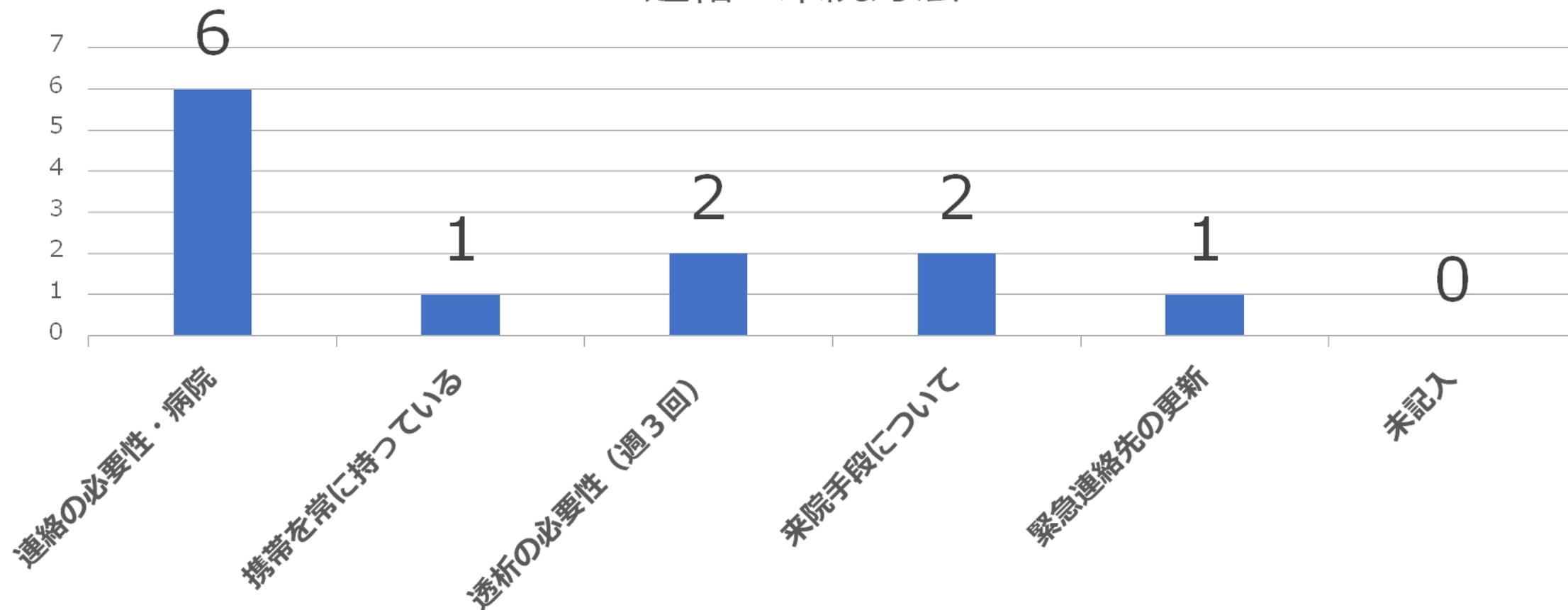
6「指導した」とお答えの方へ、 指導の内容を教えてください



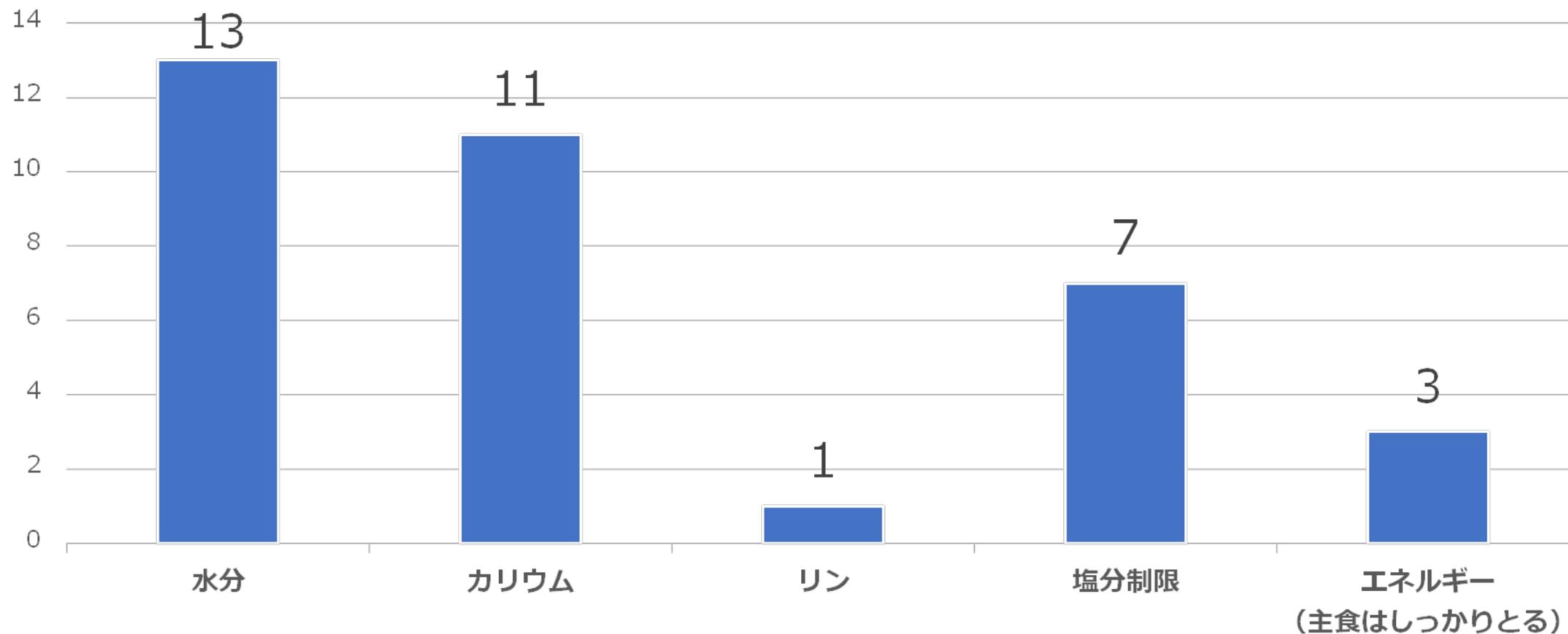
複数回答あり

6. 「連絡・来院方法」で指導した具体的内容

連絡・来院方法



6. 「食事指導」の具体的内容



複数回答あり

その他の指導内容

- 災害時ダイヤルの使い方や利用後の行動
- 災害時の心構え、持ち出し品について
- 災害カードの作成（DW、シャント肢、血液型、感染症、生年月日）
- 食事調達、通院手段がない場合、役所に相談
- 排便調整（体重増加を最小限に留める）

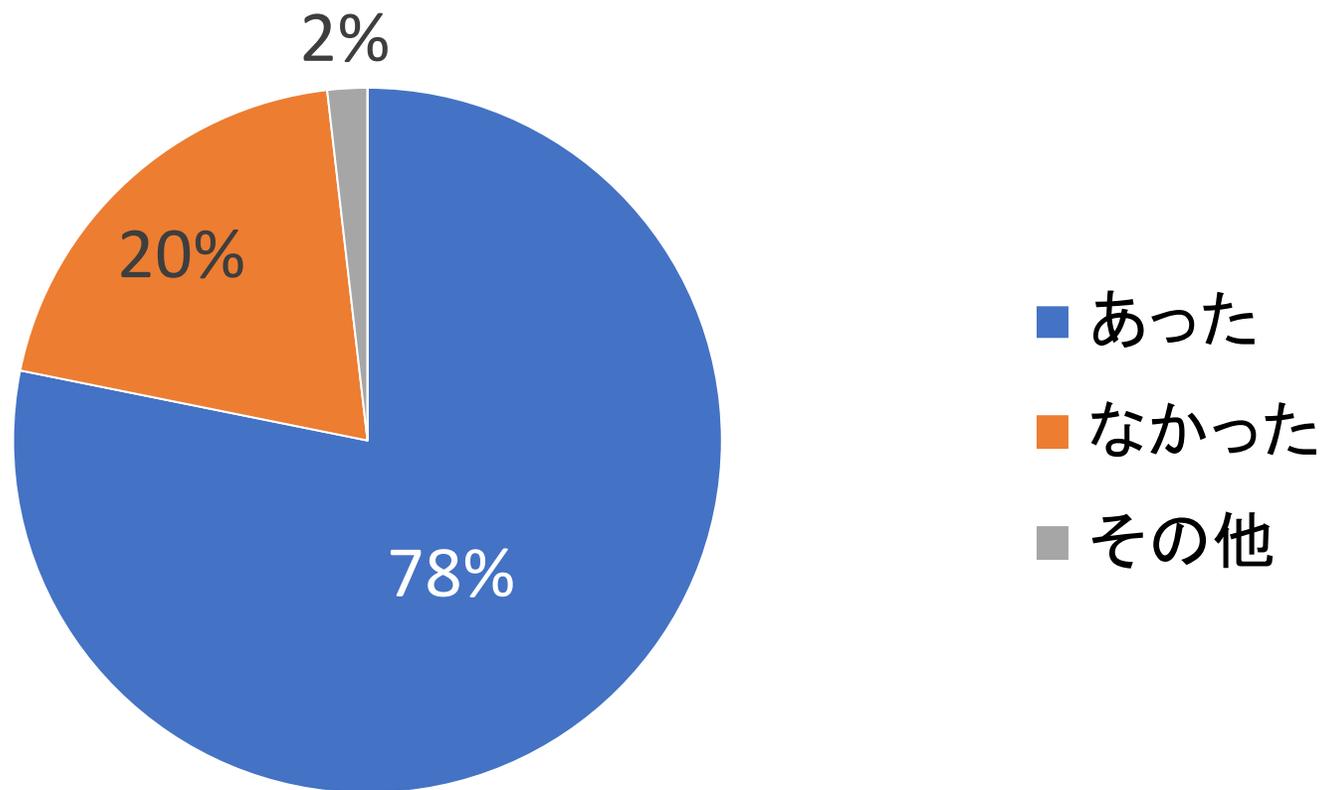
実施していないと答えた施設の返答

- 日頃の来院不可能な場合の事前連絡を指導しており、特に改めてはしなかった
- 患者様と共に年に1回は災害訓練を実施している。その中で適宜個人対応をしているのみ
- 地震などの災害に備えてのパンフレットを渡している
- 毎年、災害時訓練の学習会で説明している
- 内服に関しては災害で予備確認を2回したが今年のような大雪のように透析不能時の指導は出来ていなかった。災害伝言ダイヤルも実施しているが実施患者は少ない

患者様に対し透析不能な場合の指導についてのまとめ

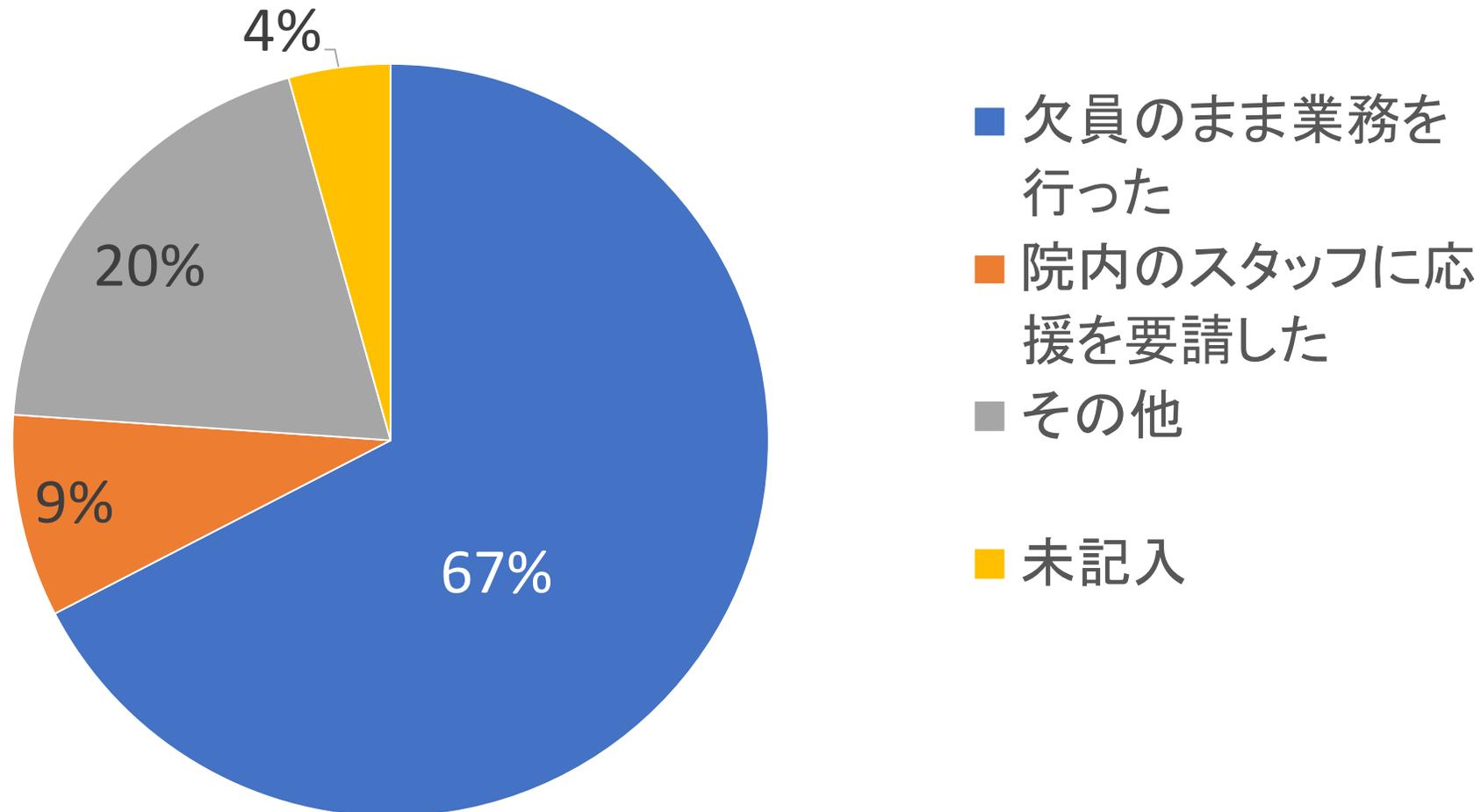
- アンケートに答えた施設の過半数が、透析不能になった場合の指導を行っていた。
- 指導内容は「食事指導」は35施設、「連絡の必要性」は12施設と大半を占めていた。
- 指導は実施していないと答えた施設では、定期的な災害訓練は行っていたが雪害ということでは、特に改めてはしていないという施設があった。

7. 今年の雪害でスタッフの来院が遅れたり、来院できなかつたりした例はありましたか



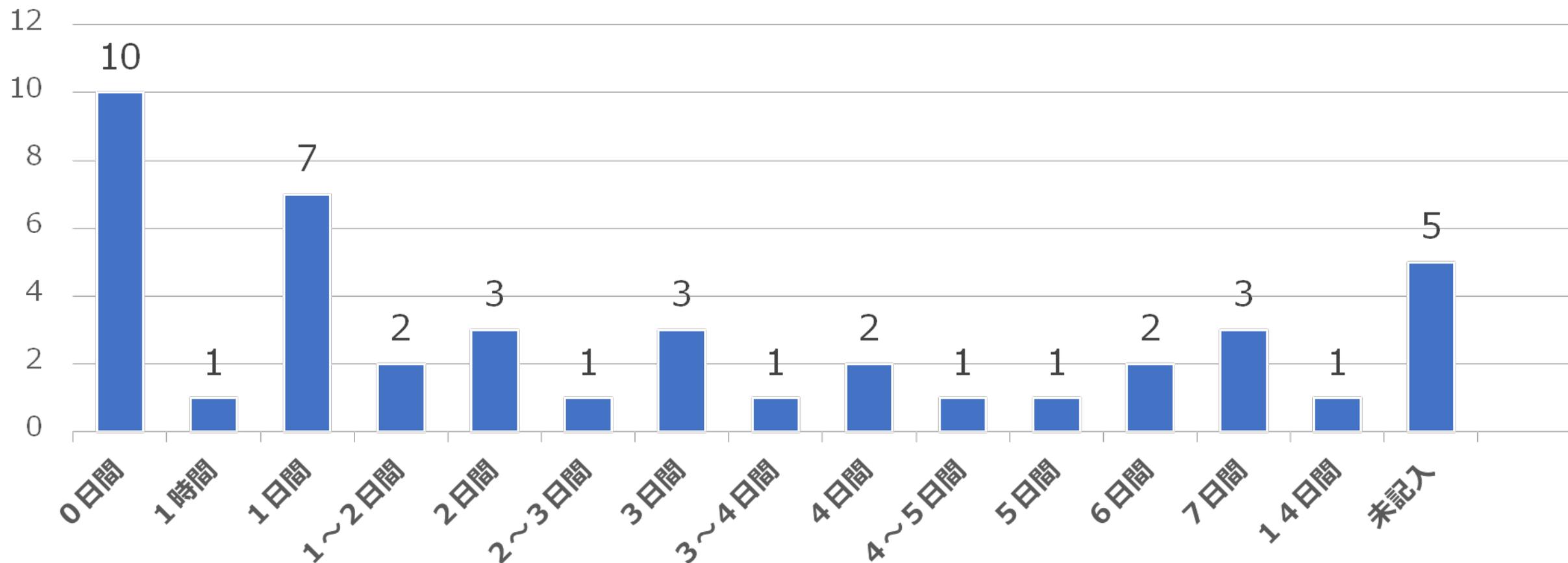
n=54

8. 7で「あった」と答えられた43施設へ。スタッフ調整はどのように行いましたか



n=43

9. 「あった」と答えられた43施設へ。スタッフ不足は何日間続きましたか



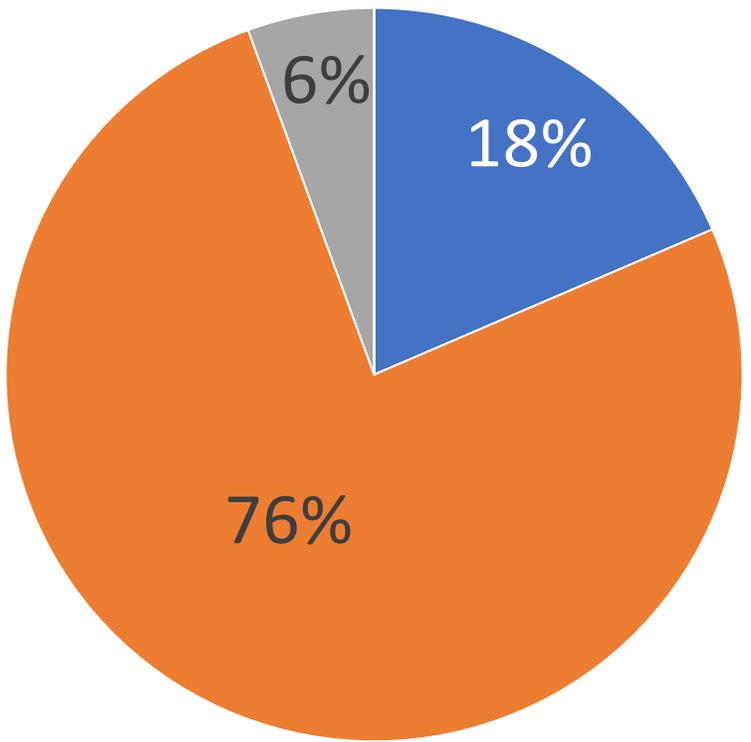
n=43

スタッフの状況と対応についてのまとめ

- 約9割の施設でスタッフが来院困難な状況が存在し、調整が必要な状況であった
- スタッフの来院困難は、半数の施設では1～2日程度でほぼ解消されたが、長い施設では14日間継続された施設もあった
- 欠員のまま業務を行っていた施設は7割弱であった



10. 物資の不足や到着遅延で問題は生じたか

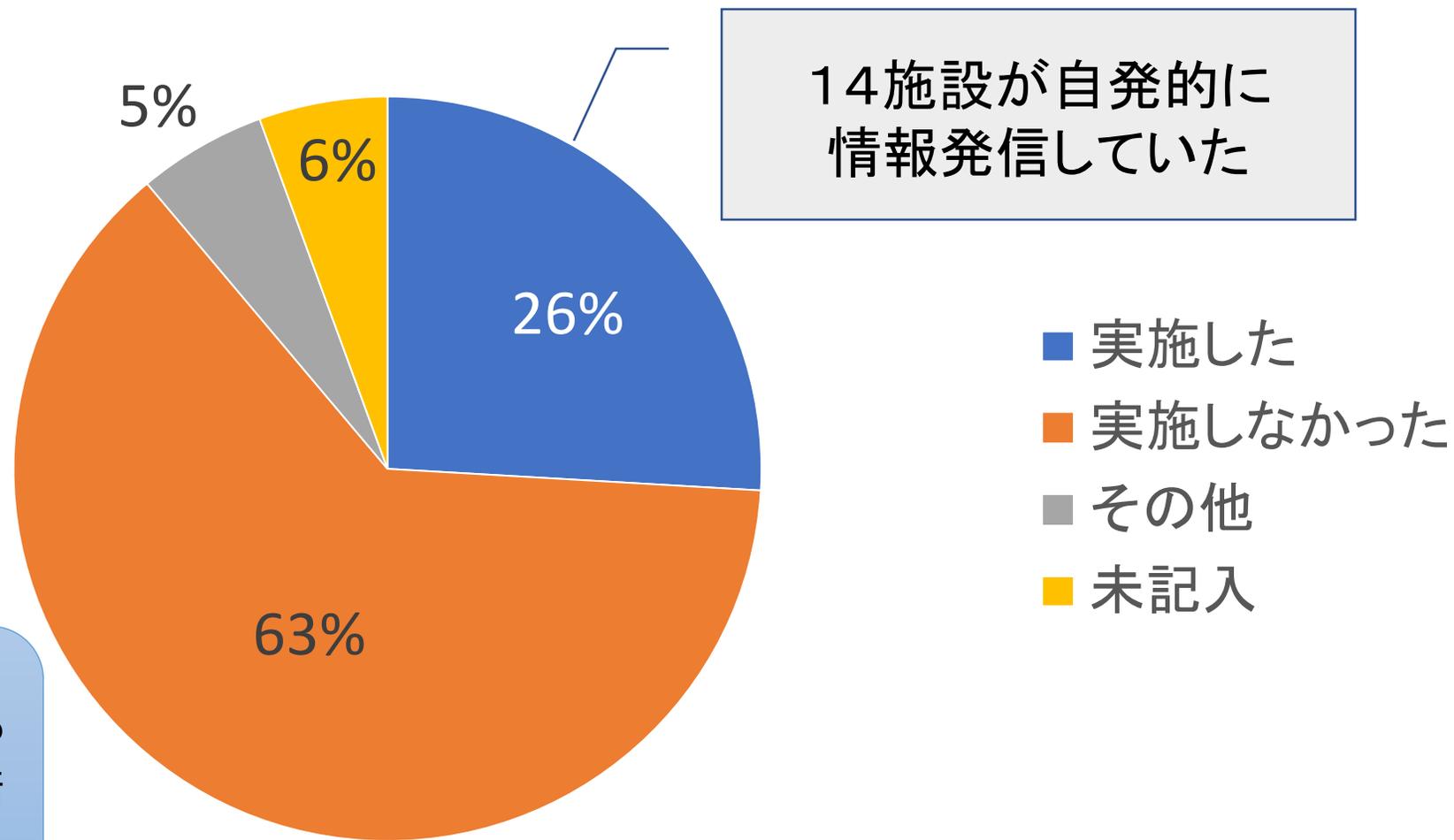


- あった
- なかった
- 未記入

n=54

納品遅延
他施設からの資源の借用
他院からの透析患者受け入れを中止した
災害時用の備蓄を使用
酸素の不足の恐れがあった

11. 外部へ情報発信は実施しましたか



14施設が自発的に
情報発信していた

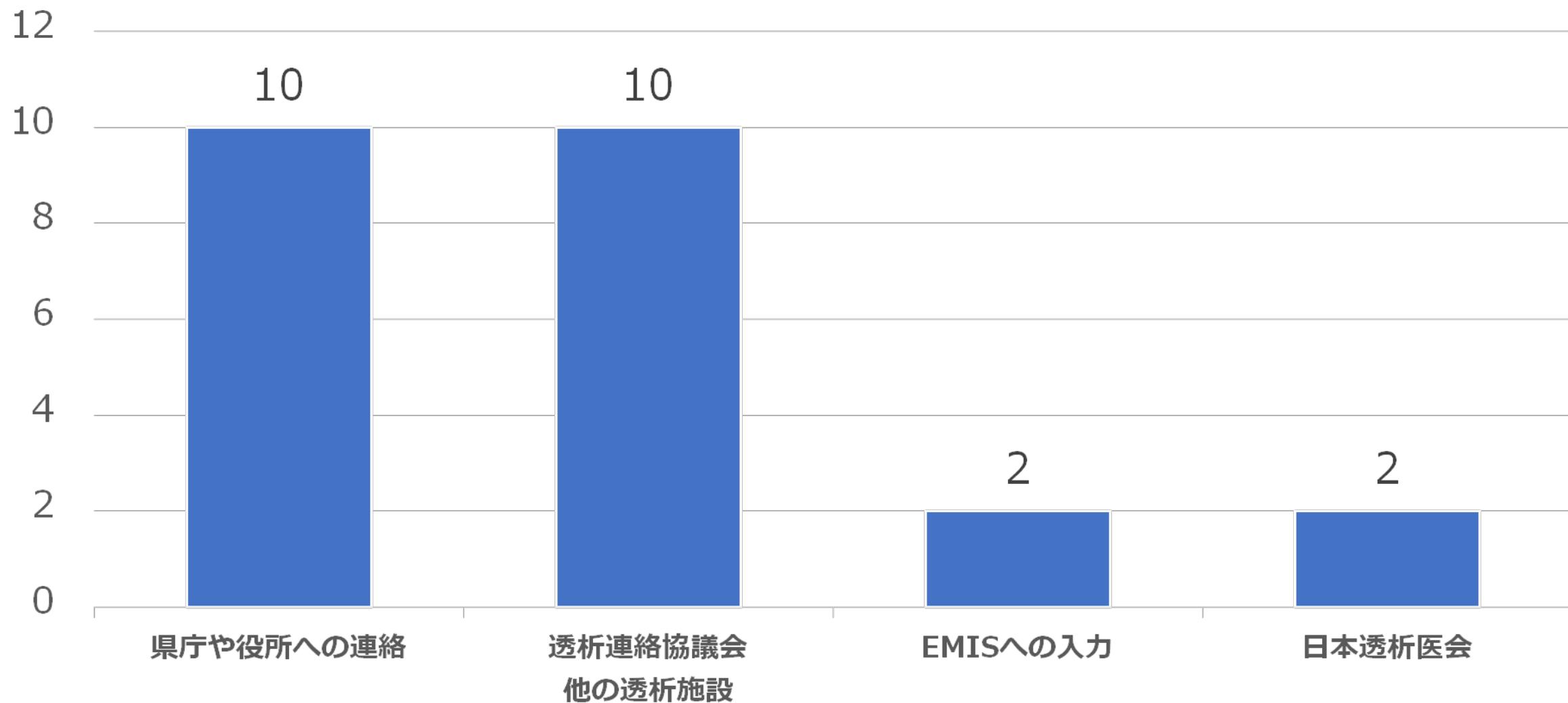
- 実施した
- 実施しなかった
- その他
- 未記入

5施設は、透析ネットワークや
県庁からの問い合わせに、情
報発信していた

n=54



連絡の方法



複数回答あり

13. 今後、災害に備え（雪害以外も含め）どのようなことに取り組む必要があるか

- 患者、スタッフの通院・通勤手段の確保（入院などベッドの確保）、近隣施設との連携
- 病院と患者が確実に連絡を取り合える体制作り
- 近距離範囲内での透析治療、臨時受け入れ透析ネットワーク強化
- 行政との連携
- TVやラジオでも積雪や公共交通機関の情報が多いだけで、その他の情報は少なかった。医療機関の情報の発信が必要。
- 普段より患者への指導が大切

考察・今後の課題

- 地震、火災のマニュアルはどの施設でも整備されているが大雪への対策に流用出来る内容を盛り込む必要がある
- 大雪による患者の不安や焦燥軽減の為に災害時の迅速な対応は必要であり、患者・介護者との通院手段、連絡方法の強化が必要
- 透析患者にとって、透析困難な状況は生命に関わる重要なことであり、普段からの災害時に対応できる災害カードの作成や患者指導の充実が必要
- スタッフの来院困難に対し、シフト変更やベッドコントロール、業務分担など、迅速なマネジメントが必要
- 今後、北陸地方での雪害は想定内であり、次回に活かすためにも、問題点や取り組み事項を共有する場が必要